

2004年度 同志社大学大学院
司法研究科法務専攻（法科大学院）専門職学位課程
入学試験 第2次審査

試験問題

法律科目試験 I

[注意]

1. 試験開始の合図があるまで、この表紙を開けてはいけない。
2. 問題紙の本文は、「憲法」、「刑法」、「刑事訴訟法」各1枚、計3枚である。試験開始後ただちに欠落や印刷の不鮮明な箇所がないか確認すること。欠落や印刷の不鮮明な箇所がある場合は、手を挙げて監督者に知らせること。
3. 解答用紙は、「憲法」2枚1組、「刑法」2枚1組、「刑事訴訟法」2枚1組の計6枚である。解答用紙の左上にそれぞれ「憲法」、「刑法」、「刑事訴訟法」と記載されているので、必ず対応する解答用紙に解答を記入すること。対応しない解答用紙を使用した場合は、採点されない。解答は2枚1組の1枚目から記入し始めること。
4. 各解答用紙の右上に受験番号の記入欄がある。すべての解答用紙に受験番号を正確・明瞭に記入すること。組になっている2枚目の解答用紙にも忘れずに記入すること。
5. 解答は、黒色のペンまたは鉛筆で記入すること。
6. 試験はすべて監督者の指示によって行う。監督者の指示に従わない場合や不正行為を行ったときは、試験場から退出させる。
7. 試験開始後、30分以内は退出できない。
8. 試験終了後、問題紙は各自持ち帰ること。

2004年度 同志社大学大学院
司法研究科法務専攻（法科大学院）専門職学位課程
入学試験問題〔法律科目試験Ⅰ〕

（憲 法）

憲法第31条は、法定手続の保障として、「何人も、法律の定める手続によらなければ、その生命若しくは自由を奪はれ、又はその他の刑罰を科せられない。」と定めている。

最高裁判所が、この規定によってどのようなルールが保障されていると解釈してきたかについて、具体的判例をあげて説明した後、最高裁の各判例における解釈に対する自己の見解と、判例の結論の妥当性について論ぜよ。

2004年度 同志社大学大学院
司法研究科法務専攻（法科大学院）専門職学位課程
入学試験問題〔法律科目試験Ⅰ〕

（刑 法）

次の事例(1)におけるXの罪責を論じながら、一般的に被害者の錯誤に基づく同意が行為者の罪責にいかなる影響を及ぼすかにつき、自説を述べ、反対説を批判せよ。また、自説の立場から、事例(2)のYにいかなる犯罪が成立することになるかについても併せて論ぜよ。ただし、特別法違反の点は除く。

事例(1) Xは、愛人Aから心中しようと言われ、心中する意思がないのに追死するように装い、毒物をAに服用させて死亡させた。

事例(2) Yは、医師免許がないのに、医師であると詐称して病院を開業し、通常の医療行為を行い、患者Bから診療代を受け取った。

2004年度 同志社大学大学院
司法研究科法務専攻（法科大学院）専門職学位課程
入学試験問題〔法律科目試験Ⅰ〕

(刑事訴訟法)

実体的真実の解明について、以下の各点に焦点を合わせて論ぜよ。

- 当事者主義と職権主義
- 訴因制度，証拠法則